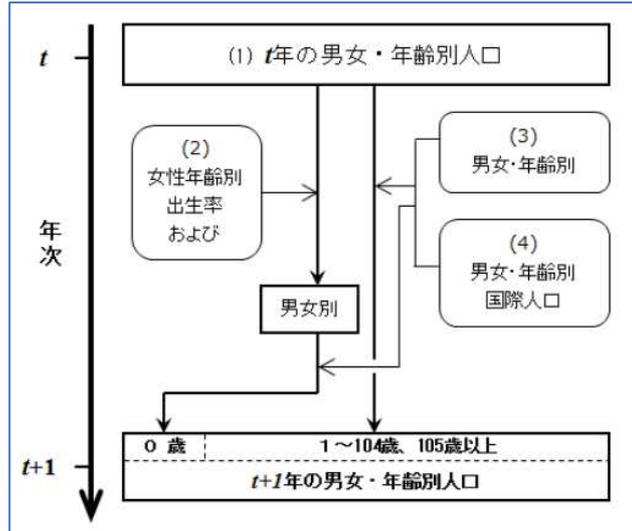


4. 解説：日本の人口予測と構造

人口の将来予測は最も確かな予測値の一つと言われる。それは、逆説的に言えば、急には変わらないからとも云える。現在、議論されている人口構造に関する問題は 20 世紀末頃からすでに指摘されていたことである。

通常、人口予測に用いられる推計は「コーホート要因法」[年齢別人口の加齢にともなって生ずる年々の変化をその要因（死亡、出生、および人口移動）ごとに計算して将来の人口を求める方法]を基礎として行われる。



出典：日本の将来推計人口 告知ル社会保障・人口問題研究所
<https://tinyurl.com/yzwxk9gb>

<最新の主たるデータ>

- 日本の将来推計人口 [2017年(平成29年)推計] <https://tinyurl.com/yd5w9cau>
- 日本の将来推計世帯数[2018年(平成30年)推計] <https://tinyurl.com/yzmsrl4z>
主たるポイント <https://tinyurl.com/yfnl9qpi>
 1. 世帯総数は 2023 年をピークに減少開始、平均世帯人員は減少が続く
 2. 「単独」「夫婦のみ」「ひとり親と子」の割合が増加
 3. 世帯主の高齢化が進み、65 歳以上の高齢世帯が増加する
 4. 高齢者の独居率が上昇
- 国勢調査人口[2020年(令和2年)人口速報集計] <https://tinyurl.com/yhjttmd9>
主たるポイント <https://tinyurl.com/yhjttmd9>
 1. 2020 年 10 月 1 日現在の我が国の人口は 1 億 2,622 万 7 千人、世帯数は 5,572 万世帯
 2. 2015 年に比べ、人口は 86 万 8 千人減少 (0.7%減) と引き続き人口減少
 3. 全国 1,719 市町村のうち、1,416 市町村 (82.4%) で人口が減少

人生の大きな区分ごとにみる日本の人口構造は右図のとおりである。数年前より、すでに高校生以下の人数よりも、ペット(犬・猫)の方が多い。高齢者層もアクティブシニア層から、団塊世代が後期高齢者層に移行しつつある。

こうした個人の人生の流れを見据えた対応が個人、社会に求められている。



各種資料より作成